

資料 2

平成 27 年度事業計画

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(3)
3. 編集委員会	(4)
4. 学術委員会	(4)
5. 統計調査委員会	(5)
6. 専門医制度委員会	(6)
7. 国際学術交流委員会	(9)
8. 評議員選出委員会	(11)
9. 保険委員会	(11)
10. 倫理委員会	(12)
11. 腎不全総合対策委員会	(12)
12. 危機管理委員会	(13)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(13)

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第60回日本透析医学会学術集会は、東京女子医科大学第四内科 主任教授 新田孝作会長が主宰し、平成27年6月26日（金）、27日（土）、28日（日）の3日間、パシフィコ横浜等を会場として開催する。

今回のテーマは「医理工連携と透析医療」を掲げて開催する。

<特別講演>

『「腎性貧血」から「CKDに伴う貧血」』

「統計調査から見た腎性貧血治療ガイドラインの歴史と役割」

「日本医療研究開発機構のミッションと展望について」

「再生医療が切り拓く先端医療」

「在宅医療の未来」

「新しい専門医制度」

「血液浄化器はどのように誕生し、高性能化を求めてどのように進化してきたか」

「透析における終末期医療・ケアと望ましい死～豊かな生の総仕上げを目指して～」

<会長講演>

「血管石灰化の病態と治療」

<招請講演>

「Setting a new Public Health Objective for Dialysis outcomes」

「A Reexamination of the Body Mass Index-Mortality Relationship in Maintenance Hemodialysis Patients」

「Phosphate Regulation in CKD : Biomarkers and Therapeutic Directions」

「International Society of Nephrology's 0 by 25 Initiative for Acute Kidney Injury」

<企業共催招請講演>

「WHAT IS NEW IN UREMIC TOXICITY ANNO 2015?」

<シンポジウム>

「CKD-MBDと他臓器連関（臨床への提言）」、「透析患者の心血管合併症のUp-to-date」, 「2015腎性貧血ガイドラインの改定ポイント」, 「高齢血液透析患者の管理：EBMとADLによる目標」, 「JSDT2015 PDOPPS Symposium」, 「透析医でもある移植医からみた先行的腎移植」, 「AKIによる多臓器不全と急性血液浄化」, 「腹膜透析液の課題と未来」, 「シャント狭窄に対する最新診療—病態解明から遺伝子治療まで—」, 「ハイリスク腎移植レシピエント」, 「透析医療における感染対策～マニュアルからガイドラインへ」, 「バスキュラーアクセス—その温故知新—」, 「オンラインHDFの現状と将来展望」, 「高齢ドナー、レシピエントの腎移植はいまどこまで進歩したか？」

<ワークショップ>

「過剰血流、スチール症候群に対する治療法」, 「透析患者における抗がん剤治療の現状」, 「透析療法における医療情報の活用とその展望」, 「ダイアライザの性能と治療効果」, 「腹膜透析患者の看護と介護—在宅診療と医療連携—」, 「透析患者の消化器疾患と手術」, 「HDFフィルタの適応を考える」, 「透析患者の在宅療養生活支援のための連携～誰との連携か？ 連携強化の可能性をさぐる～」, 「伴侶動物の腎機能障害と血液透析」, 「血液浄化におけるモニタリング技術とその展開を考える」, 「長時間頻回透析に望まれる透析液組成」, 「腎性貧血治療における鉄を考える」, 「透析施設における事前指示書の運用」, 「CKD-MBDを巡る
Key Word：基礎を踏まえた臨床」

<学会・委員会企画>

『腎不全総合対策委員会：「ESRD：わが国の現状と課題」』, 『血液浄化の機能・効率に関する小委員会・ISO

対策ワーキンググループ合同委員会：「コンセンサスカンファレンス：透析液水質基準の改定」, 『危機管理委員会：「災害時透析医療におけるコンセンサス」』, 『学術委員会：「Dialysis therapy, year in review 2014」』, 『血液浄化の機能・効率に関する小委員会：「生体適合性のよいバイオマテリアルの設計概念」』, 『専門医制度委員会と男女共同参画推進小委員会の合同企画：「専門医制度の課題」』, 『医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会：「各種コメディカルからみた透析療法の変遷と将来」』, 『保険委員会：「透析医療の費用対効果：診療報酬改定に資するもの」』, 『血液浄化に関する新技術検討小委員会：「一つ先の技術を臨床に展開するための医理工連携」』

<教育講演>

「透析患者と血管石灰化」, 「CKD 患者の心疾患治療戦略とチーム診療の重要性」, 「透析患者の心疾患 up to date」, 「CAPD 最新の知見」, 「透析と精神医学：最近の知見」, 「On line HDF の最新の知見」, 「先行的腎移植」, 「知って得する透析患者の腎癌 最近の知見」, 「これからのバスキュラーアクセスを考える」, 「在宅血液透析」, 「透析患者の SAS と RLS 特に病態と治療」, 「透析療法の動向～統計から見えてくるもの～」, 「透析と医療経済」, 「CAPD 合併症の克服」, 「腎性貧血と HIF」, 「透析と再生医療」, 「CKD 骨病変の基礎と臨床」, 「CKD-MBD 最新の知見」, 「血液透析患者の血圧管理～予後を考慮したベストな血圧管理の実践を目指して～」, 「PAD の総合診療」, 「血液透析における凝固止血異常とそれに伴う血栓塞栓症—ヘパリン起因性血小板減少症の関与を考える」, 「CKD と脳血管障害」, 「糖尿病透析患者での動脈硬化進展防止に向けた戦略」, 「透析患者の脂質異常」, 「血液浄化器の特徴と性能」, 「急性血液浄化療法の最新の知見」

<よくわかるシリーズ>

「実践的な透析指標の見方, 考え方」, 「On line HDF の具体方法」, 「透析患者の栄養管理の実際 (1)」, 「透析患者の栄養管理の実際 (2)」, 「基礎からのヒューマンエラーと人間工学」, 「腎不全治療に携わる看護師が知っておきたい腎移植の知識」, 「糖尿病透析患者の血糖管理」, 「実践的な透析患者の心臓のみかた」, 「在宅医療の実際—アシスト PD や血液透析患者への応用—」, 「認知症の理解と対応」, 「二次性副甲状腺機能亢進症の薬物療法～活性型ビタミン D とシナカルセト～」, 「リン管理の実際—食品, 飲料からの無機リンを見直そう—」, 「水質管理の実際」, 「全自動透析装置について」, 「アクセスの管理の実際」, 「透析患者への運動療法実施にあたって知っておきたいこと」, 「カルニチン」, 「NOAC とはなにか」, 「PD/HD 併用療法の実際」, 「急性腎傷害 (AKI) ～概念・診断・対策～」, 「高カリウム血症 up to date」, 「透析患者の感染症」

2) 通常総会

- (1) 第 60 回通常総会開催：平成 27 年 6 月 25 日 (木) 16:00～
- (2) 学会賞・奨励賞授与式及び講演会開催：平成 27 年 6 月 27 日 (土)

3) 役員会

- (1) 常任理事会・理事会開催：平成 27 年 5 月 16 日・6 月 25 日・12 月 4 日・平成 28 年 3 月 25 日 計 4 回
- (2) 監事による監査会開催：平成 27 年 5 月 15 日 (金)

4) 透析施設会員名簿の発行

会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

会員ホームページに検索マップが開設され、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

5) 小委員会

(1) HP・電算機小委員会

① 学会ホームページの円滑な運営、内容の充実を図る。

a. 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

- b. 各種委員会，小委員会，ワーキンググループ活動内容を積極的にHPに掲載する。
- c. 会員専用ホームページの更なる内容の充実を図る。
- d. HPリニューアルについて検討する。

② 透析装置の通信共通プロトコルバージョンアップについて検討する。

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

- ① 腎不全看護師育成に関する助言と問題点への対策を行う。
- ② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。
- ③ 栄養管理士育成事業として，日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成事業（CKD分野）における助言を行う。

(3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には，関係者の協力を得て機動的に対応するとともに，今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。

(4) 男女共同参画推進小委員会

第60回日本透析医学会学術集会・総会において，専門医制度委員会と男女共同参画推進小委員会の合同企画「専門医制度の課題」を行う。

各常置委員会，学術集会・総会における女性会員の起用を要望する。

また，学術集会・総会で，乳児から小学生までの託児所の開設を検討する。

専門医制度において，女性会員の妊娠，出産，育児，介護と学会活動の支援を検討する。

多職種の男女共同参画状況と問題について検討する。

(5) 統計調査の在り方小委員会

- ① 2015年度の統計調査は匿名化で行うことに決定しているため，今年度は匿名化手法の妥当性の確認，統計調査の倫理委員会審査結果の確認を行う。
- ② 手持ちデータの匿名化データへの変換についての道標を明確にする。
- ③ 統計調査結果の解析，論文化の計画の明確化，会員施設へのインセンティブを明確にする。
- ④ 本学会全体のIT化を視野に入れた，統計調査のIT化の方向性と予算計画を明確にする。

(6) 発展途上国の若手医師・コメディカルに対する研修サポート小委員会

東南アジアの8か国を選定し，これらの国の透析スタッフ（医師，看護師，その他）に，わが国の透析施設で研修を受けてもらうプログラムの検討に入った。研修受け入れ施設としては，認定医制度委員会が認定する施設とし，各施設に対して研修受け入れの意思を問うアンケート調査を実施する。また各委員は，JSDTのガイドラインをベースに研修で使用するテキストを執筆し，新年度にはこれを全国に配布する。これらの活動を通じて，学会として継続的支援が可能な体制を模索する。

6) 学会との連絡，協力関係

1) 日本医学会，2) 日本医学会連合，3) 日本医師会，4) 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会，5) 透析療法合同専門委員会，6) 内科系学会社会保険連合，7) 臓器移植関連学会協議会，8) 末期腎不全治療説明用小冊子作成，9) 糖尿病性腎症合同委員会，10) 登録腎生検予後調査検討委員会，11) 先行的献腎移植申請審査会，12) 透析療法に関するグラウンドデザイン，13) 日本透析医会との連絡協議会，14) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力，連携を密にしていく。

2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され，これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準に

則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。

また、移行法人としての期間は、公益目的財産額の把握および公益目的支出計画の作成等法人の基本情報、公益目的支出計画実施報告書の作成を適正に行う。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊を発行する。

学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行する。

2) 欧文誌について

(1) Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

国際アフェレシス学会、日本アフェレシス学会と共同で、引き続き年6回刊行する。

(2) 新規公式欧文雑誌の創刊について

本学会独自の新規公式欧文雑誌の創刊を行う。

雑誌名は Renal Replacement Therapy (RRT) に決定した。

初年度は掲載論文数28本を目標とする。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同してすべき学術活動に関して協議・遂行する。

3) 学術専門部小委員会（土田健司委員長）

(1) ガイドライン手順書ワーキンググループと協力し、新たな学術システムの構築の一つである year in review 2014 を第60回日本透析医学会学術集会・総会（平成27年6月）において委員会企画として発表する。

(2) 2015年中に year in review 2014 を学会誌に報告する。

4) ガイドライン手順書作成ワーキンググループ（政金生人委員長）

(1) 当学会のガイドラインの意義、構造、作成・改訂手順を明確化し、「日本透析医学会ガイドライン作成に関わる手順書（仮題）」としてまとめ学会誌に報告する。

(2) 学術専門部小委員会と協力して、喫緊のリサーチクエッションを明確化して、新たなガイドライン作成、ガイドライン改訂スケジュールを策定する。

5) 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦委員長）

統計調査委員会のデータを用いて、わが国の透析患者における栄養指標の評価を行う。これをあわせて栄養状態の評価方法に関する検討を行い、テキストを作成する。このテキスト作成は学術委員会の活動と適宜連携する。

6) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ (山本裕康グループ長)

2012 年末より「2008 年版日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の改定作業を継続してきたが、2015 年 3 月にワーキンググループとしての草案を作成した。今後、パブリックコメント等による調整を経て、本年の学術総会前に確定する予定である。なお、「新しいガイドライン」は透析会誌および TAD へ順次掲載する。

7) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会 (土田健司委員長)

学術委員会、統計調査委員会と連携して、エビデンスの収集を行うとともに、本学会第 60 回学術集会において学術委員会企画 Dialysis therapy, year in review 2014 を開催する。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する学術小委員会 (峰島三千男委員長)

- ① 血液浄化器の機能分類 2013 の再検討：S 型 (特別な機能) の明確化について検討する。
- ② 透析液水質基準を再検討する。
- ③ 日本臨床工学技士会、日本医療機器テクノロジー協会人工腎臓部会の協力を得て「ISO 対策ワーキンググループ」を継続し、本邦の見解を ISO 基準へ反映させる。
- ④ 日本臨床工学技士会、日本血液浄化技術学会の協力を得て透析液濃度測定 of 標準化を図る。
- ⑤ 透析液組成の見直しについて検討する。
- ⑥ 第 60 回日本透析医学会学術集会・総会において学術委員会企画セッションならびにコンセンサスカンファレンス「透析液水質基準の改定」を開催する。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会 (山下明泰委員長)

- ① 第 59 回学術集会に引き続き、第 60 回学術集会 (平成 27 年 6 月) においても委員会で議論した成果を、委員会企画で発表する。
- ② 委員会の成果を具体化するために、臨床的な検討やものづくりに向けたシステム構築を進める。平成 27 年度は、そのために検討が必要な事象 (特許, PMDA の判断など) を洗い出す。
- ③ 平成 26 年度同様、委員会は年に 3 回開催する。各委員の研究進捗報告のみならず、問題点解決に向けて互いの協力体制の強化を図る。さらに、今後の活動資金 (現在は各委員が独自に捻出している) の獲得についても検討する。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会 (伊丹儀友委員長)

- ① 第 60 回学術集会において発表した各職種の変遷と展望をまとめて発表する。
- ② 発表後、各職種の教育、研究体制について委員会で討論し、学会誌に投稿する。
- ③ 学会内に医師の専門医教育などの教育・研究体制についての類似の委員会が存在する。そのような委員会との協力や統合を含めて検討を開始する。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会 (友 雅司委員長)

例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

5. 統計調査委員会

1) 2014 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告

- (1) 速報値パンフレット作成：第 60 回学術集会 (6 月) で参加者全員に配布予定。
- (2) 現況報告の作成：本年から確定データで作成し 2015 年末までに発行する。
- (3) 現況報告の PPT ファイルを英文化してホームページに掲載する。
- (4) CD-ROM の作成：確定データで作成する。施設会員に配布、ホームページに掲載する。
- (5) 2016 年 1 月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況 (2014 年 12 月 31 日現在)」を掲載する。
- (6) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2013 年 12 月 31 日現在) の英語版を作成し、本学会誌英語版 (Thera-

peutic Apheresis and Dialysis) に掲載する。

2) 2015年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況について調査する。

今年度調査は下項のごとく匿名化で行うため、新規調査は行わない。

3) 統計調査の匿名化・倫理的妥当性の確認

(1) 統計調査委員会と委託業者で密に協議して匿名化手技を確立する。

(2) 匿名化調査・手持ちデータ匿名化の完全匿名化までの作業工程を明確化する。

(3) 上記を踏まえた統計調査の実施計画を再検討し、本学会統計調査の意義、社会的重要性、倫理的妥当性を広く会員に周知する。

4) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

(1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、学術委員会など各種委員会と協力して、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行う。

(2) 上記の目的のため、これまでに蓄積されたデータの整備を行う。

(3) 解析計画は統計調査小委員会において統括する。

(4) 解析は各種委員会主体で行うため、従来行ってきた公募研究、委員会研究は一時停止する。

5) 学術研究用データベースの整備・解析ファイルの作成

(1) 2001～2013年の研究用データベースの整備を行う。

(2) 2000年以前の研究用データベースの整備を行う。

(3) 上記2件について、匿名化調査と呼応するように匿名化を行う。

(4) 学術委員会他からの研究目的に応じた解析ファイルの作成を行う。

6) 会員インセンティブの充実

(1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため地域協力員メーリングリストを作成し、積極的な情報提供に努める。

(2) 統計データの利用方法など、将来的な会員インセンティブ整備の方向性についての試案を作成する。

7) 国内・国際協力の推進

(1) 日本透析医会をはじめとした他学会、さらには米国USRDS等の調査・研究と連携し、データ供与や解析を行う。

(2) 米国腎臓学会の際に、統計調査委員会とUSRDSメンバーとのボードミーティングを行う。

8) 委託業者の見直し

(1) 委託業務をより効率的、経済的に行うために委託業者の見直しを行い、2016年度の公開入札の準備を行う。

(2) 上記は学会全体のIT化を念頭に、各種委員会と連携協議の上行う。

6. 専門医制度委員会

日本透析医学会専門医制度委員会は、血液浄化療法に関連する医学と医療の進歩に即応した優秀な医師の養成をはかるとともに、透析医学の向上発展をうながし、国民の福祉に貢献することを目的として活動し、よりよい専門医制度の実施を目指すための事業計画を策定した。透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることが最重要であり、専門医制度整備指針第1版に準じて、さらなる専門医制度の改訂を検討し、ヒアリングに備える。

1) 専門医制度委員会

各小委員会で整備した内容についての検討

(1) 研修プログラム小委員会の検討課題

専門研修施設群の検討、専門研修プログラムのさらなる整備

(2) カリキュラム小委員会の検討課題

専門研修カリキュラム，専門研修指導マニュアルの改訂および略語集の追加
症例要約モデルの改訂の必要性を検討
セルフトレーニング問題の作成

(3) 専門医認定小委員会の検討課題

専門医制度規則・規則施行細則の検討
e ラーニング（医療安全，倫理，感染，災害，ガイドライン，診療ガイド，提言など）の検討
適正な専門医数と年間育成専攻医数の検討

(4) 専門医試験小委員会

専門医試験の実施
専門医試験問題の管理方法の検討

(5) 施設認定小委員会

専門医制度規則・規則施行細則の検討

現行の専門医制度規則・規則施行細則については，必要に応じて見直しを審議する予定である。

2) 「倫理の問題」については毎年啓発しており，専門医認定の口頭試験で受験者の倫理観を確認する予定である。

3) 透析専門医としての「質」を継続維持していくために，本学会専門医の更新を目指す医師を対象に「セルフトレーニング問題」を導入しており，カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い，その問題を学会誌に掲載し，専門医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。なお，専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお，問題は学会誌には掲載せず，応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し，受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は9号に掲載する予定である。

4) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として，全国を細則第2条の11地区に分け，年1回各地区の各地方学術集會にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して，専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集會を推薦し，専門医等認定事業経費から助成金を支給している。この他に，各地区の専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が推薦する1つの生涯教育プログラムに対し，それを開催する11集會に助成金を支給する予定である。

5) 専門医認定審査は，今までと同様に書類審査，客観式筆記試験（問題形式はAタイプ，X2タイプ），口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い，合否を決定する予定である。優良な試験問題400題のプールを目指して，新規問題の作成および過去の試験問題のブラッシュアップを行い，効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化を行う予定である。

6) 専門医認定（専門医認定試験），専門医認定と更新，指導医認定と更新，認定施設・教育関連施設認定と更新，の公示・受付等については下記の通りである。

(1) 第26回専門医認定

申請受付の会告 2015年3月～5月

申請書類受付 2015年6月1日～6月30日

専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10月18日（第3日曜日）

試験会場 都市センターホテル（東京都）

・第1回専門医認定（1991年度認定・1996年度更新・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新）
更新認定

更新申請受付の会告 2015年8月～10月

更新申請書類受付 2015年11月1日～11月30日

- ・第6回専門医認定（1996年度認定・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015年8月～10月

更新申請書類受付 2015年11月1日～11月30日

- ・第11回専門医認定（2000年度認定・2006年度更新・2011年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015年8月～10月

更新申請書類受付 2015年1月1日～11月30日

- ・第16回専門医認定（2006年度認定・2011年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015年8月～10月

更新申請書類受付 2015年11月1日～11月30日

- ・第21回専門医認定（2011年度認定）更新認定

更新申請受付の会告 2015年8月～10月

更新申請書類受付 2015年11月1日～11月30日

(2) 第26回指導医認定

申請受付の会告 2015年10月～12月

申請書類受付 2016年1月4日～2016年1月31日

- ・第1回指導医認定（1991年度認定・1996年度更新・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015年9月～11月

更新申請書類受付 2015年12月1日～12月25日

- ・第5回指導医認定（1995年度認定・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015年9月～11月

更新申請書類受付 2015年12月1日～12月25日

- ・第11回指導医認定（2001年度認定・2006年度更新・2011年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015年9月～11月

更新申請書類受付 2015年12月1日～12月25日

- ・第16回指導医認定（2006年度認定・2011年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015年9月～11月

更新申請書類受付 2015年12月1日～12月25日

- ・第21回指導医認定（2011年度認定）更新認定

更新申請受付の会告 2015年9月～11月

更新申請書類受付 2015年12月1日～12月25日

(3) 第 25 回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告 2015 年 4 月～6 月
申請書類受付 2015 年 7 月 15 日～8 月 15 日

・第 3 回認定施設・教育関連施設認定（1993 年度認定・1996 年度更新・2001 年度更新・2006 年度更新・2011 年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015 年 4 月～6 月
更新申請書類受付 2015 年 7 月 15 日～8 月 15 日

・第 5 回認定施設・教育関連施設認定（1995 年度認定・2001 年度更新・2006 年度更新・2011 年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015 年 4 月～6 月
更新申請書類受付 2015 年 7 月 15 日～8 月 15 日

・第 10 回認定施設・教育関連施設認定（2000 年度認定・2006 年度更新・2011 年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015 年 4 月～6 月
更新申請書類受付 2015 年 7 月 15 日～8 月 15 日

・第 15 回認定施設・教育関連施設認定（2006 年度認定・2011 年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2015 年 4 月～6 月
更新申請書類受付 2015 年 7 月 15 日～8 月 15 日

・第 20 回認定施設・教育関連施設認定（2011 年度認定）更新認定

更新申請受付の会告 2015 年 4 月～6 月
更新申請書類受付 2015 年 7 月 15 日～8 月 15 日

7. 国際学術交流委員会

1) 第 60 回日本透析医学会学術集会において以下のセッションを主催する.

Invited lectures

(1) Transition from CKD to dialysis and potential roles of incremental (twice-weekly) HD and residual kidney function

Kamyar Kalantar-Zadeh

University of California, USA

(2) Uremic Toxins from Colon Microbes

Timothy W. Meyer

Stanford and VA Palo HCS, USA

Special lecture

Epidemiology of the patients on chronic dialysis therapy in Japan

Kunitoshi Iseki

Okinawa Heart and Renal Association (OHRA), Clinical Research Center, Tomishiro Central Hospital, Okinawa, Japan

Symposium 1

Present Status of Renal Replacement Therapy (HD, HDF & PD) in Asian Countries : What is your best RRT for dialysis patients?

- (1) Present status of Renal Replacement Therapy in Myanmar
Khin Maung Maung Than
Department of Nephrology, Defence Services Medical
- (2) Present Status of Renal Replacement Therapy (HD, HDF & PD) in Asian Countries : What is your best RRT for dialysis patients?
KS Nayak
Department of Nephrology, Deccan Hospital, Hyderabad, India
- (3) The present status of renal replacement therapy, quality of water and dialysate, and staff education in Vietnam
Tuyen Gia Do
Department of Nephro-Urology, Bachmai Hospital Hanoi Vietnam, Hanoi Medical University, Vietnam
- (4) Status of renal replacement in China and impact of HD staff member education on clinical outcomes in maintenance dialysis patients in Beijing
Wen Hu Liu
Nephrology Department of Beijing Friendship Hospital, China
- (5) Present Status of Renal Replacement Therapy (HD, HDF & PD) in Asian Countries : What is your best RRT for dialysis patients?
Korntip Pattanasittangkur
Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Rajavithi Hospital, Thailand
- (6) PD First in Hong Kong- Perspectives and Outcomes
Philip KT Li
Chinese University of Hong Kong, Hong Kong
- (7) Quality of water for renal replacement therapy and education for clinical engineering technologist
Tomotaka Naramura
Department of Medical Engineering, Junshin Gakuen University, Japan
- (8) Clinical Nutrition education in Japanese dietitians
Ken-ichi Miyamoto
Department of Nutrition, Institution of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School, Japan
- (9) Introduction of the support program of JSOT to the developing countries of dialysis
Akihiro C. Yamashita
Department of Chemical Science and Technology, Faculty of Bioscience and Applied Chemistry, Hosei University, Japan

Symposium 2

What is the Optimal ESKD Care in the Super Aging Society?

- (1) Frail dialysis population : growing burden for dialysis community
Kirsten L. Johansen
University of California, San Francisco, USA
- (2) Poor short-term prognosis in the incident elderly Japanese dialysis patients
Masahiko Yazawa

Department of Hypertension and Nephrology, St Marianna University School of Medicine, Japan

- (3) Decision/timing of dialysis initiation among elderly patients : A patient-centered approach

Ann Margaret O'Hare

Department of Medicine, University of Washington, USA

- (4) Dialysis withholding/withdrawal : A proposal from the task force of JSOT and the reality in Japan

Hiroyasu Yamamoto

Department of Internal Medicine, Atsugi City Hospital, Japan

- (5) Implementing a patient-centred palliative approach to dialysis care

Sarbjit Vanita Jassal

University Health Network, Canada

その他, 一般演題セッションを実施する.

海外からの参加者, 演者, 国際交流委員会委員, 日本透析医学会評議員などの学術交流の場として, 大会開催中に Farewell party を開催する.

- 2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣を行う.

- 3) その他

国内で開催される, 関連国際学会に積極的に参加する.

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第3回評議員選挙について

- 1) 日本透析医学会評議員選出規則第7条に基づき, 第3回評議員選挙について, 学会誌10月号およびホームページにて公示を行う. また, 有権者名簿, 立候補資格, 地区の定数, 選挙期日などについて合わせて, 公示を行う.
- 2) 平成27年11月20日までに有権者から, 有権者名簿に脱漏, 誤記を認め異議の申し立てがあった際にはこれを受け, 異議を認めた時は, 有権者名簿の訂正を行い, 有権者に公示を行う.
- 3) 平成27年11月20日立候補を締め切り, 学会誌12月号およびホームページにて立候補者名を地区別に公示する.
- 4) 平成27年12月1日までに立候補辞退届を受理する.
- 5) 平成28年1月上旬に有権者に投票用紙を郵送する.
- 6) 平成28年2月15日に投票を締め切る.
- 7) 平成28年2月中旬以降に立会人のもとに開票し, 全国区, 地方区の定数に応じて, 有効投票数の多いものから順次当選者とする.
- 8) 当選者が決定した場合, すみやかに当選者に通知し, 学会誌3月号およびホームページにて公示する.
- 9) 選挙結果発表日より, 14日以内に文書による異議申し立てを受ける.

9. 保険委員会

平成28年度保険改定に向けて内科系社会保険連合(内保連)の血液浄化委員会, 日本腎臓学会, 日本アフェレシス学会, 日本急性血液浄化学会, 日本小児腎臓病学会, 日本腹膜透析医学会ならびに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行い, 内保連を通じて厚生労働省に提案する. 今後, 診療報酬の決定において費用対効果が重視される可能性があり, 第60回日本透析医学会学術集会・総会において「透析医療の費用対効果: 診療報酬改定に資するもの」というテーマのもとに保険委員会企画を行い, その対応に備える.

「透析液水質確保に関する研修」を第 60 回学術集会および専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施する。

10. 倫理委員会

- 1) 透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 透析医学会として対応すべき、研究倫理に関する課題に対して、随時研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取り扱いをするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 腎移植の普及に努める。
 - (1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会などと共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行う。
 - (2) 日本移植学会、日本臨床腎移植学会、日本小児腎臓病学会と協力し、日本腎臓学会の「腎移植研修プログラム（教育セミナー、研修病院での研修）」へ会員の参加を積極的に呼びかける。
 - (3) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な積極的な公開を進める。この実務に当たる腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、末期腎不全統計、preemptive 腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法についてのコンセンサスなど、実質的な検討を行う。

また、その成果を学会誌、学会 Web、商業誌、monograph などで公開し、腎不全治療の啓発に努める。
 - (4) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかる。特に 2014 年は献腎移植が減少しており、献腎移植増加に向けて協力する。
 - (5) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」が望ましいことでないこと、「病腎移植」はきちんとした倫理的手続きを取らない限り施行すべきでない等の問題についても積極的な啓発活動を行う。
- 2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じる。
 - (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、当委員会傘下の CKD 対策小委員会、腎臓病総合レジストリーワーキンググループを中心に、円滑なレジストレーション、および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を強化する。特に、日本腎臓学会と日本透析医学会のレジストリーの連携を図る。
 - (2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進める。
 - (3) 厚生労働省が支援している CKD 重症予防研究についても協力する。
- 3) 腹膜透析の普及に努める。
 - (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかける。
 - (2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行う。
 - (3) 行政に対して積極的に働きかけ、ヘルパーが PD バッグ交換をできるようにするなど、高齢者などが PD 医療を容易に受けることができるような体制を築く。

- (4) 治療の標準化を推進するための方策として、現在のPD医療において、何が問題なのかをアンケート調査をもとにあぶりだす。
- 4) 患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、DVDを作成し、この配布と普及に努める。
- 5) 小児腎不全患者の現状と問題点、特に移行の問題、について把握する。

12. 危機管理委員会

- 1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの活動を継続し、統計調査委員会と協力の上震災の透析患者の病態、生命予後に与える影響について解析し2次報告書を作成する。
- 2) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの提言をまとめたダイジェスト版を作成して、英語論文化する。
- 3) 災害下の透析治療の展開に必要とされる、災害時透析治療の内容、水処理を含めた技術的なマニュアル、ボランティア制度、教育・訓練、透析患者の自助、災害時透析拠点病院、患者情報の取り扱いについてのコンセンサス作りを行う。その一環として、第60回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「災害時透析医療におけるコンセンサス」を行い、広く意見をもとめ、一定の見解をだす。
- 4) 地域透析医療災害対策の現状についてのアンケート調査結果から問題点を抽出し、対応策を立てる。
- 5) 首都直下型地震への対応における問題点について検討し、対応策をたてる。
- 6) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。
- 7) 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で、透析医療に関わるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。
- 8) 日本透析医会が中心になって調査を行った「透析医療事故の実態に関する全国調査」の結果にもとづいて、具体的な対応策を検討して、透析医療における医療事故防止の啓発に努める。
- 9) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動の提案、関連団体の学術活動への協力を行う。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 本学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針ならびに取り扱い細則の見直しを行う。
- 2) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討、審査請求に対する判断・マネジメント等を行う。